

3-P-14

地域在住自立高齢者の QOL と口腔機能低下症との関連性 －健康寿命の延伸に向けて－

福田昌代¹⁾泉野裕美²⁾ 澤田美佐緒¹⁾ 畑山千賀子²⁾ 重信直人³⁾ 堀 一浩⁴⁾ 小野高裕⁴⁾

【目的】『高齢者の QOL の維持・向上には、舌や口唇を含む口腔機能が関連している』ことを明らかにするために、地域在住自立高齢者を対象に口腔機能の客観的検査結果と、QOL 評価との関連性の調査を実施した。

【対象および方法】対象は、大阪府内 S 市在住の高齢者教室に参加している自立高齢者 31 名（男性 15 名、女性 16 名、平均年齢 71.9 ± 5.2 歳）とし、口腔関連 QOL の指標である GOHAI と口腔機能低下症診断基準となる 7 項目（最大舌圧、オーラルディアドコキネシス、咀嚼能力、咬合力、口腔不潔、口腔乾燥、嚥下スクリーニング EAT-10）について比較検討した。

【結果及び考察】GOHAI と年齢との関連では、GOHAI が 49 以上の者の年齢は 70.9 ± 4.8 歳、48 以下の者の年齢は 74.6 ± 5.5 歳であり、年齢の高い者の方が GOHAI は低値を示した。次に、口腔機能低下症診断基準 7 項目と GOHAI の関連では、舌圧、オーラルディアドコキネシス、咀嚼能力、咬合力、口腔乾燥の 5 項目で口腔機能が低下していると評価された場合に GOHAI は低値を示した。今回は対象人数が少ないため、いずれの結果も有意差は認められなかった。しかし、この結果から QOL と口腔機能との関連性があるとの推測はできると考え、今後さらに人数を増やして継続的な調査を行っていく予定である。

また、発表時には口腔機能向上プログラムの効果についても報告する。

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科
3) YMCA 総合研究所 4) 新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野